



丹波地域ビジョン委員会情報誌

うりぼうニュース

第20号
平成24年11月発行

「うりぼうニュース」の「うりぼう」とは、「イノシシの子ども」のことで、丹波地域がイメージでき、これからの成長を願えるようにと命名しています。

発行：丹波地域ビジョン委員会 〒669-3309 丹波市柏原町柏原688 TEL(0795)72-0500(内217) FAX(0795)72-3013

第6期丹波地域ビジョン委員会スタート

5月13日(日)、丹波市柏原町の柏原自治会館で第6期丹波地域ビジョン委員会総会を開催し、第6期の活動が本格的にスタートしました。

丹波地域夢ビジョン「みんなで丹波の森」の実現に向けて、頑張ってまいりますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。



お知らせ

丹波の森夢会議の開催

- 【テーマ】 丹波地域の「いいね！」を増やしましょう
- 【日時】 平成24年12月15日(土) 13:30～
- 【場所】 柏原住民センター(丹波市柏原町柏原5528)
- 【内容】 ●ビジョン委員の活動発表
●意見交換等



CONTENTS

第6期丹波地域ビジョン委員会総会・分科会の様子	P 2
委員長・副委員長・企画部会長就任あいさつ	P 3
各グループの活動紹介	P 4
丹波地域ビジョン委員会とは・・・	P 6
改訂丹波地域ビジョンの概要	
丹波県民局施策の紹介	P 8



第六期丹波地域ビジョン委員会

総会の様子

総会では、七十七名がビジョン委員の委嘱状を松田太輔丹波県民局副局長から受け取りました。

松田副局長からは、新任の委員が五十二名と大幅に入れ替わったので、委員会に新しい風を吹き込んでいただくことを期待したい、また、OBの方々はこれまでの経験を生かして頑張っていたいただきたい、昨年十月に策定された改訂丹波地域ビジョンのとりまとめの中心となった第五期の方々には、改訂版の普及・啓発の中心となって頑張ってくださいたいとのあいさつがありました。

その後、委員長、副委員長、企画部会長の選出を行い、委員長には足立德行委員（丹波市）、副委員長には青木芳信委員（篠山市）、企画部会長には横田親委員（丹波市）が就任しました。続いて、県企画県民部ビジョン局ビジョン課から、昨年度改

訂された「二十一世紀兵庫長期ビジョン（二〇四〇年への協働戦略）」について、四つの社会像（創造的市民社会、しごとと活性社会、環境優先社会、多彩な交流社会）と十二の将来像、将来像を実現するための十二の協働シナリオのもとで実現に向けた取組を進めていくので、各委員にはビジョンの普及啓発や地域づくりの実践活動の輪の拡大を期待したいとの説明等がありました。



▲委員長・副委員長・企画部会長就任

また、事務局から、全県ビジョンと同様、昨年度に改訂された「丹波地域ビジョン『みんなが丹波の森』と「丹波地域ビジョン委員会」について説明を行いました。



▲総会の様子

分科会の様子

総会に続き、各委員が希望する分科会に分かれて、自己紹介や今後取り組みたいことなどについて意見交換を行いました。分科会は、改訂丹波地域ビジョンで提示した五つの将来像「自

立」「交流」「元気」「絆」「安全安心」ごとに設置し、九月までに計二十三回開催しました。その後、分科会A（自立）から「たんばなう」、分科会B（交流）から「里山のお宝探検隊」と「都市との交流」、分科会C（元気）から「遊楽農」、分科会D（絆）から「高齢者の生きがいづくり」と「青少年健全育成」、分科会E（安全安心）から「さるが出た!!」と「男女共同参画」の八つの実践活動グループが誕生し、様々な活動を始めています。



▲分科会での議論

委員長就任あいさつ

委員長 足立 徳行

みなさんこんにちは。この度、第六期丹波地域ビジョン委員会の委員長を務めさせていただくことになりました。

第五期委員会では、地域ビジョンの実現に向け様々な活動を進めてきた中で、丹波地域に生じている人口減少等の時代潮流の変化や新たな課題を踏まえて、現行ビジョンの点検・見直しが行われ、「丹波の夢ビジョン」「みんなで丹波の森」の改訂版が平成二十三年十月に策定されました。

改定ビジョンに示された「自立」「交流」「元氣」「絆」「安全安心」の五つの将来像実現に向け、第六期委員会が実践活動を展開していくこととなりますが、ビジョン委員のみなさんは、「丹波が大好き」な方ばかりであり、「任んでよかった」「任んでみたい。」と語っていただけの魅力ある丹波地域づくりをめざそうと、八つの実践活動グループでの活動を始めていただいております。

企画部会等を通じて、相互交流を行うとともに、地域で活動されている方、県・市行政とも連携・協力を図りながら、仲間を増やし、丹波地域全体に取組の輪を広げていただくと考えております。

次代を担う若者が将来を託すに足る丹波地域になることを夢見て、微力ではありますが委員のみなさんと一緒に二年間頑張ろうと思っております。よろしくお願ひします。

副委員長就任あいさつ

副委員長 青木 芳信

今、丹波地域は大変革期を迎え、住民意識も大きく変化しています。

従来の自分の生活や地域社会の有り様を見直し、今後の在るべき姿を必死に模索している最中といえます。また、三・一一の地震・津波・原発災害等は、丹波地域の住民の価値観をも大きく揺さぶり「三・一一後」の地域づくりに多大な教訓となっています。

このような時に第五期に引き続き、改訂丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」の将来像の実現に向け、第六期委員会に参加させていただき感謝しております。

特に丹波地域の基幹産業である農業は、この二十年衰退の一途をたっています。耕作放棄地、農業者の高齢化・減少等々。この衰退の道は農村荒廃に続いているのです。しかし、今ならまだ農業の成長への潜在力があり、この潜在力をどう効率的に活性化させるかが、行政関係者と住民の力の見せどころだと思います。

「ピンチをチャンスに変える気持ち」、失敗を恐れずに開拓する「野心的意欲」で丹波地域ビジョンの実現に向け、参画と協働による地域づくりの促進を図りたいと思います。

副委員長 谷水ゆかり

ちょうど四月末頃に読んだ本が大石加奈子氏の著「エンジンアリング・ファシリテーション」でした。ここ

に「ヴィジョン」について書かれてあり、この地域ビジョンに関わるにあたって、比較的スムーズに入れました。「ヴィジョン」とは、「未来に向けて、自分がなりたいイメージ・実現したい姿・望む幸せな未来像」をいうそうで、章の最後は「自走の原動力」と結ばれています。私はこの「自分がなりたい」「自走」というところが気に入っており、「ヴィジョン」とは、人から指示されたり、無理に描いたりするものでもなく、ましてや行政や誰かにお願ひして作ってもらうものではないようです。

私はいわゆる後取り娘で、田舎が嫌いなのに連れ戻されたら泣きながら帰ってきました(笑)。しかし、今、自分の子どもたちが高校生や大学生になって、この年頃の子どものちが、自分で選んで、この丹波に戻ってきて暮らしたいと思えるような地域にしたいと、強く願うようになりました。それにはどうするか・・・未だ試行錯誤ではありますが、メンバーのみなさんと議論し活動を始めながら思うのは、微力でもまちづくりに参加していただければいい！という実感と、私でも何か変えられるという可能性かなと思います。おしゃべりに近い議論を重ねながら、頭を柔らかく決して否定しない、イメージを具体的にしているのやってみる、いい人達に出会えた、だから楽しい、楽しいところに人は集まってくる！これにつぎると思っています。この地域はこれから、もっともっと良くなりますよ！

企画部会長就任あいさつ

企画部会長 横田 親

三十歳で企画部会長の大役を任せていただきました。とてもやりがいのある役割で光栄に思います。ただ、これが当たり前の状態でないといけないと思います。「誰かがやるのを待つより、自分がやらんかい」です。若手は「どうせ年配の人が勝手に進めるねん」などと言いついて元気がなく、ご年配の方も「ワシらもうこの世を去るだけやから」と、真剣に役割に没頭するわけでもなく。みんな自分のことばかりの、優しさの不足した町は寂しいものです。

ビジョン活動を通じて目指す市民の姿は「自主性の高い自治を行う市民」。そもそも国内産業が衰退するなか、税収が下落し、行政改革を強く国民が求めた結果の姿です。高度経済成長の時代は終わり、国民の生き方に変化が求められるなか、とにかく「他人任せ」で生きる姿勢こそ優先に変化すべき点だと考えています。また、普通の山間部である丹波地域の活性化がなされることは、すなわち日本のすべての山間地から、希望と羨望の眼差しを受けるという可能性を持つことに、市民は夢と希望を持つべきだと考えています。自分が変われば、まちも世界も変わる。そんな大義と夢をもって活動していきたいと思います。

各グループの活動紹介



グループたんばなう

— みんなで創る“自立のたんば” — ～いらないものを宝物にする～

今まで捨てられていたものや価値がないと思われていたものを発掘し、それを見直し新しい価値を加えることでビジネスへとつなげていこうとしています。新しい価値を創造し、それを地域に還元していくことで、地域の人々の自立心を呼び覚まし、ひいてはそれが地域の自立へとつながると信じ活動をしています。

1年目はビジネスの種の発掘とし、渋柿を利用し柿茶、柿渋、つるし柿、柿酢などを作ったり、放置されがちな竹林の竹を使った商品化を模索しています。その他にも見過ごされ忘れられた物を掘り起こしています。「身の回りにこんなものが余っているのだけど使い道がないかな」という方は、情報とともにぜひ活動に参加していただき一緒に新しいビジネスを作り上げていきましょう。

里山のお宝探検隊グループ

— 都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば” — ～里山を歩く、里山を知ってもらおう～



私たちは、グループ名を「里山のお宝探検隊」と命名して活動を始めました。丹波地域における里山の隠れた魅力を発掘し、地域の人達と都会の人達が里山を介して結びつくことにより、丹波地域の優れた環境、資源、豊かな人間関係などの良さをアピールして、地域活性化の一助になるようグループ一同ハリキっています。

検討を重ねるたびに、ぼやけていた目標も段々に見えるようになってきました。10月にはメンバーが里山についての知識を高め、魅力発信の源を研究するために、日本一の里山林として有名な川西市黒川にある里山林の見学に行ってきました。当日は里山林を支えている2名の方から説明を受け、台場クヌギやパッチワーク状の景観、菊炭など魅力ある里山の自然に触れながら研修することができました。私たちもこの研修を参考に丹波地域のすばらしいロケーションを見つけ出し、多くの人が丹波地域の里山に憧れてくれるような企画、演出を考え活動を進めていきたいと思っています。



都市との交流グループ

— 都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば” — ～都市住民の丹波地域への移住、定住をすすめる～

我々のグループは、第5期の活動を継続しながら、さらなる発展を目指します。

第6期の活動内容は、①都市住民を丹波地域の祭り・イベントや里山歩き・里山体験へ招待し、交流イベントを行う、②Iターン者と丹波地域住民との交流会を行う、③第5期に作成したIターン・Uターン者名簿を充実させる、④定住促進のための県・市事業や他のグループ、関係団体との連携を図る、の4つのテーマに集約されますが、今期は特に若い人たちの勧誘に力を注ぎたく考えています。そうした活動の一つとして、11月には篠山市の「洞光寺ともみじまつり」の場をお借りし、“都市と丹波の交流”コーナーを設置し、都市の方々と丹波地域住民とのざっくばらんな意見交換を行う予定です。

今後、4つのテーマについて具体的に計画、実行していきますので「都市との交流」に興味のある方はぜひご参加ください。お待ちしております。

遊楽農グループ

— やりがいを実感できる“元気なたんば” —
～農業の楽しさ・楽しさを丹波で体験しよう～

食料自給率や食の安全性、農業に対する関心が高まっています。しかし、生産現場では、後継者不足や耕作放棄地の拡大など様々な問題を抱えており、丹波地域も例外ではありません。これからの農業の発展に繋がるような活動を、楽しさも取り入れながら推進したいと思います。具体的には、都市住民に参加を呼びかけ、有機農業の体験塾「丹波の里塾」を実施するとともに、農産物を使った加工品の検討等も行っていきたいと思っています。



高齢者の生きがいがづくりグループ

— 多世代が支え合う“絆のたんば” —
～高齢者の健康づくり・やりがいがづくりを考えよう～

これまでの会議の中で、高齢者が生き生きと地域の一員として活動できる健康づくりと生きがいがづくりを活動のテーマとしました。

今後の活動を進めるにあたって、篠山市・丹波市の高齢者の生きがいがづくりに関する取組状況を把握するため、両市の現状と課題について勉強会を実施することとし、10月に篠山市健康福祉部の具体的な取組状況と課題について説明を受け、意見交換を実施しました。今後は丹波市との勉強会を実施したり、勉強会で得た情報等を基にビジョン委員で取り組める内容の整理を図っていきます。また、健康づくりについては、誰もが簡単に取り組めるウォーキングをテーマに「インターバル速歩」等の講習会を実施していきたいと考えています。

青少年健全育成グループ

— 多世代が支え合う“絆のたんば” —
～不登校・ひきこもりを地域で支えよう～

青少年健全育成グループでは、不登校やひきこもりの当事者・家族を支えるネットワークをつくるための活動をしています。夏にはたんばTERAKOYAを開催。おもちゃづくり、食事作り、自由学習等に約50名の参加があり夏の一日を楽しく過ごしました。

また、毎月、丹波市春日町で、こども・若者の居場所「TAMARIBA」を開催し、自由な時間を過ごしています。今後は、若者サポートステーションを見学し就労支援の実状を学んだり、講演会等を開催したいと思っています。



グループさるが出た!!

— とともに暮らす“安全安心なたんば” —
～他人事ではなく自分のこととして考えるために～

私たちのグループ名は「さるが出た!!」にしました。

災害というものは、自分自身が当事者になって初めて災害であり、どんな大災害でも自分に影響がなければ他人事で「かわいそうに。」で終わらせていると思います。丹波地域でも、近くの村でサルが出ていても、自分の村までは出てこないと対策も検討も全くせずについて、サルが出て初めて「ああだ、こうだ、どうしよう・・・。」と慌てたと聞きました。私たちは、サル(自然災害・人災・事故・事件・病気といった災害)に遭う前に少しでも対策や準備をして、自分自身の健康・安全を図ってこそ、家族を守ったり、地域の人々を助けたり、役に立てることができます。反対に地域が安全であればこそ家族も自分自身も安全に暮らせるともいえると思います。

東日本大震災や亀岡の児童死亡事故など、「よそ(他人事)のことや!」とはせず、将来やってくると思われる災害に、私たちは備え、考えて、たとえ災害に遭ったとしても最小限の被害ですませることができるよう、丹波地域で安全安心に暮らせることをめざしていきたいと思います。



— ともに暮らす“安全安心なたんば” —
～男で支え合う地域づくりをめざして～

第5期から行ってきた『男女で支え合う地域づくりを考える』紙芝居の上演を引き続き行うとともに、新たな紙芝居作成を考えています。第5期からのメンバー4名に、新たに第6期5名の新メンバーが加わり更にバージョンアップした紙芝居上演が行えると期待しています。

新しい紙芝居は、“男女が支えあって生きる意味”について試行錯誤しながら考え中です。地域役員だけでなく、老若男女誰にでも受け入れてもらえるような紙芝居を作成したいと奮闘しております。ご期待ください！早速、10月には篠山市で上演をいたしました。今期も楽しく、和気あいあいと、そして真剣に男女共同参画グループ、活動していきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

丹波地域ビジョン委員会とは・・・

目的

丹波地域ビジョンで提示した将来像を実現するために、地域住民のみなさんの参画と協働により、様々な活動に取り組むために設置している委員会です。平成13年度から設置し、現在は第6期となっております。

役割

- 地域ビジョンの紹介やフォローアップ
- 地域のシンボリックなプロジェクトの検討や実施
- ビジョン委員会が主催するフォーラム(丹波の森夢会議)への参加
- 地域ビジョンの実現に向けた実践活動

改訂丹波地域ビジョン

「みんなで丹波の森」を昨年10月に策定しました

丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」は、平成元年に策定された「丹波の森構想」の10年以上にわたる取組の成果と課題を踏まえて、平成13年2月に、丹波地域の将来像とその実現方策を地域のみなさんが提案し、とりまとめたものです。

現行ビジョン策定から10年が経過し、その後の人口減少・少子高齢化の進展等の地域の変化や、5期10年のビジョン委員活動をはじめとする地域づくりの成果等を踏まえ、将来像の見直しを行うとともに、ビジョン実現のための取組方向・提案をまとめた改訂丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」を平成23年10月に策定しました。

5つの将来像「自立」「交流」「元気」「絆」「安全安心」の実現に向け、ビジョン委員会を中心に取組を進めていますので、みなさんも一緒に活動してみませんか。ホームページでもビジョンの紹介をしています。

(アドレス <http://web.pref.hyogo.jp/area/tanba/vision.html>)

丹波地域をとりまく環境の変化

人口減少社会の到来、農林業をはじめとする地域産業の厳しい状況、住民による地域づくり活動の活発化、交流活動の多様化、環境意識の高まり、地域コミュニティ機能の低下、情報化の進展、安全・安心意識の高まり、ユニバーサル社会への社会的要請の高まり

丹波地域の新たな課題

住民の地域づくりへの参加、豊かな自然と景観の保全、都市部や京都丹波等との交流・連携、子育て環境づくり、高齢者の社会参加、農林業・地域産業の振興、多様な働き方等の促進、ICTの活用、若者の定着、安全安心な社会づくり

新たな5つの将来像

1 ーみんなで創る“自立のたんば”ー (将来像1)

- ・住民が地域の魅力に気づき、地域への愛着を深め、積極的に地域づくりに取り組んでいる。
- ・住民や団体のネットワークが張りめぐらされ、多彩な人材が集落や地域づくりを支えている。

2 ー都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば”ー (将来像2)

- ・地域の美しい自然や景観、豊かな田舎暮らしのライフスタイルが引き継がれている。
- ・日帰り観光から週末等の短期滞在、定住など、様々な形を通じて丹波地域へ人々が集まっている。

3 ーやりがいを実感できる“元気なたんば”ー (将来像3)

- ・農産物が全国ブランドとして確立し、新たな担い手が生まれるなど、農林業が盛んになり地域産業をリードしている。
- ・地域資源を活かしたビジネス等が活発に展開され、地元で働く若者が増えたり、住民の活躍の場が広がっている。

4 ー多世代が支え合う“絆のたんば”ー (将来像4)

- ・若い世代が地域で活躍し、子どもたちは自然や地域の人々に囲まれ、元気で心豊かに育っている。
- ・高齢者は幅広い分野にわたって「生涯現役」で活躍しており、各世代がともに地域の暮らしを支えている。

5 ーともに暮らす“安全安心なたんば”ー (将来像5)

- ・だれもが助け合いながら自分の持てる能力を発揮し、開かれた地域社会の一員として、いきいきと暮らしている。
- ・健康づくりの輪が広がり、地産地消が進み、災害や医療・福祉に対する不安も解消し、安全・安心な生活を送っている。

シンボルプロジェクト「たんばを楽しむ連携・交流プロジェクト」に取り組んでいきます

【取組例】

- 丹波地域に人を呼び込むため、魅力あふれる田舎暮らしを積極的に情報発信する
- 空き家を活用した体験・交流施設をつくり、週末等の短期滞在、さらに定住化につなげていく
- 田舎暮らし支援を行うとともに、都市からの移住者のネットワークづくりを進める
- 京都丹波との連携により、「大丹波」の魅力をアピールしていく
- 企業や大学と連携した森・里づくりや地域づくりを推進する
- 多様な地域資源を活用した都市との交流を進め、丹波地域の魅力を高めることで「丹波ファン」を増やす

丹波県民局施策の紹介

丹波地域ビジョンが掲げる将来像を実現するために
丹波県民局が取り組む施策を紹介します。

田舎暮らし 体験施設の整備

丹波地域の魅力を発信し、交流・定住人口の増加及び地域コミュニティの活性化をめざす「たんばの田舎暮らし呼び込み大作戦」の一環として、空き民家を地域の共有財産として有効活用する「田舎暮らし推進モデル事業」に取り組んでいます。

篠山市福住地区、丹波市青垣町神楽地区において、地元自治会と連携して、田舎暮らしを希望する都会の人に一定期間（１ヶ月）お試しに住んでいただく住宅の整備を進めています。「田舎暮らし体験施設」では、地元住民との交流や農業、里山、伝統文化など様々な田舎暮らし体験プログラムを提供することにより、都市住民の定住や都市農村交流に結びつけます。

また、九月に「ふるさと回帰フェア二〇二二」へ出展したほか、十二月には丹波地域にＩター

ンした方に丹波の魅力を語ってもらう「たんば田舎暮らしセミナー」の開催を予定するなど丹波地域の魅力発信を展開していきます。

県民交流広場を活用した 都市との交流

丹波地域と都市部の県民交流広場が実施する都市部での農産物直販や丹波地域での農業体験等の交流を通じて、都市住民の丹波地域への定住の促進や新規



▲体験施設（篠山市福住地区）



▲体験施設（丹波市青垣町神楽地区）



▲丹波市柏原町新井地区と神戸市灘区岩屋地区との交流

就農の拡大に繋がるよう、「都市農村交流ネットワーク会議」の開催など都市との交流促進を支援しています。

編集後記

朝晩の冷え込みが、日ごとになってまいりました。第六期ビジョン委員会が発足して半年が経ち、各グループとも活発に議論を重ねています。地域の特性を活かしながら、住みよい元気な丹波地域をめざして、実践活動が始まったばかりです。

地域のみなさまも、ビジョン委員会の活動への積極的な参画とご協力をお願い申し上げます。

また、丹波の森夢会議を十二月十五日（土）に柏原住民センターで開催しますので、ぜひ参加をお願いいたします。

事務局

ご意見をお待ちしています。

〒六六九-1330

丹波市柏原町柏原六八八

兵庫県丹波県民局県民室内

丹波地域ビジョン委員会事務局

電話（〇七九五 七二一〇五〇〇）

（内線二二七）

FAX（〇七九五 七二一三〇一三）